新設幼稚園の經驗について

東京市竹町小學校附屬幼稚園　鎌田しん

開園

四月十六日が入園式（開園式は一ヶ月後）と云ふ二日前の午後から幼稚園へ初めて行く、二十餘坪の室が三つあるだけ、他に何もない。取あへず學校の前の文房具やと本やを呼んで、クレイヨン、圖畫紙、ボール紙　折り紙、月後れのコドモノクニ、子供の友、コドモアサヒ、ゴムマリ、砂場のシャモジ等をたのんで歸る。翌る日（未だ辭令を頂いてないので）前の番町小學校附屬幼稚園へ午前中出勤し午後からフレーベル館に赴き四人乘ブランコ、スベリ臺、室内ブランコ、室内スベリ臺、二人乘シーソー、トロッコ、ママゴト道具及茶道具、箱積木、ヒル氏積木、樂隊道具、木製コマ、小積木（バラのもの）シングルベルズ、スイサシ、南京玉、織紙、組紙、動物鋲、砂場のフルヒ、バケツ、オワン、背景等五百圓ばかり前夜豫算をたてたものを實際に見て、すぐトラックへ積み込み運んでもらふ。生憎の雨降り、幼稚園へ來て見ると机が五つ出來て屆いて居た、明日の準備を初める。圓山さん（保姆）と私と、トラックからば運れるものを室の周圍に飾る。少しは幼稚園らしくなつた。ブランコは据へつけられても綱が屆いて居なかつたり、南京玉があつても元結がなかつた

り、急な事とて變な事が多い。夜の八時半までかゝつてどうやら形だけは出來た。

翌る日は午後一時から入園式。その午前中に腰掛が六十出來上つて屆いて來た。一安心する。集つた子供は六十人。それに保姆數三名。いよ〳〵次の順序で入園式擧行。

一、區長の挨拶
一、保姆の紹介
一、園長の挨拶
一、來賓の挨拶
一、保姆の家庭へ對する希望

組分けをして各擔任の紹介する。三年保育兒（滿三歳）九名を三の組、二年保育兒（滿四歳）二十四名を二の組、一年保育兒（滿五歳）二十七名を一の組とする。

開園式は五月十六日に費用を二百圓程かけて實に盛大に擧行した。午前八時半から幼兒だけの祝賀式を擧げる。松本園長のお話の後唱歌をうたひ、お祝ひのお餅を頂いて歸る。午後二時から府知事。市長。區名譽職、區內校長、區內園長、區內主任保姆、竹町小學校後援會役員、幼兒保護者、參列の下に行ふ。府知事、市長の式辭、宮川區長廣田視學課長の祝辭、園長、保護者の謝辭等があり午後三時半盛會裡に式を閉ぢる。來會者二百五十餘名。

募集

開園式當時は幼兒數が六十餘名、定員は百二十名。どうしたら幼兒が集るかと日夜その事にのみ頭をなやます。初めは立看板を作り近所の小學校へお願ひしてたてゝ頂き規則書もお願ひして來る。思ふやうに集らない。警察署と區役所の戶籍係にゆき幼稚園期の子供の名前を寫して手紙を出すと云ふ案。併し山のやうに積れた帳簿を出され

た時一ヶ月通つても寫しきれないと思つた等笑ひ話そのまゝのおかしな事もあつた。最後に子供に繪を描かせる事を思ひつき、白模造紙を半分に剪り、すみ繪を描かせて繪の具で彩色をさせ、餘白に園兒募集、竹町小學校附屬幼稚園と書き赤で二重や三重丸をつけ、幼稚園の子供の家で人が集まりそうな店やへたのみ廣告をしてもらふ。尙ほ湯や、床や等へも貼つてもらつた。子供の描いた畫とて慾目かもしれないが、ポスターにしてやぶかれるのがおしいやうなものが澤山出來た。砂場で遊んで居る畫、バスケットを持つて居るもの、手をつないで幼稚園へ來るところ、水遊び、ブランコに乘つて居るところ、スベリ臺からすべるところ、實に私達が見ると面白い。彩色があるので目立つ。その爲か段々幼兒數が增して、三十八名保育滿了兒を出した後へ、八十餘名の申込があり、現在では百三十名を越して居てことわるのに困つて居る。

經費

科目	金額	附記
保姆給	二、〇〇八・八〇	三人、月額五十八圓
小使給	四一九・七五	一人月額一圓十五錢
臨時傭人	一三・五〇	九人月額一圓五十錢
保姆住宅料	一〇八・〇〇	三人、月額三圓
園長手當	一二〇・〇〇	月額拾圓
園長保姆小使慰勞手當	四三七・〇〇	月額拾圓
式日費	二四・二〇	一人十六錢
卒業式費	四・〇〇	
校外教授費	一三・二〇	幼兒十錢百二十名 各保姆一人四十錢
備品費	四四一・四五	
消耗品費	九二・七三	
給水費	三六・〇〇	
印刷謄寫費	一二・一五	

通信費	三・〇〇	
被服費	四・〇〇	
職員臨時賄	六・三〇	三人七賄一賄三十錢
小使臨時賄	一・四〇	一賄二十錢
雜費	一〇・〇〇	
應救治癒費	・七二	
藥品費	二・四〇	
運動會費	一三・二〇	一人十一錢百二十人分
運動會職員賄	二・七〇	一人三賄三人、一賄三十錢
同　小使賄	・六〇	一人三賄一賄二十錢
經常部計	三、九九八・三七	
臨時部		
幼稚園備品費	一、八〇〇・〇〇	
合計	五、七八八・三七	

右のやうに消耗品費はごく少い爲、材料費として、家庭から集める案も考へたが、不景氣（子供の家庭が商人）で月謝が四圓！　その上に又負擔があつてはと思ひ費用も集めず、全部卸値で買ふ工夫をした。例へば圖畫紙は一束買つて九ッ切にすると四五〇〇枚になり八十斤のもの一束で九圓であるから、一〇〇枚が二十錢見當になる、一年分に使ふ數を見越して、一時に大量求める方法を取つた。尙マッチ、バット、キャラメルの箱、空箱、木切、包裝紙を出來得る限り集めて利用をする、例へばビール箱をこわしてエナメルを塗り室內の砂箱にしたり、小さい木切で俎板を作つたり、包裝紙の裏に圖案をして千代紙にしたりする、子供達もどんなに小さなものでも捨てないで、一定の場所にしまひ、次の製作に役立たせる、このやうにして子供達にはクレイヨンもハサミも自由畫帖も求めさせずに豐富に材料を提供し、全部幼稚園の費用で間に合せた。

――つゞく――